

科目名	哲学			担当教員	森 正幸		
学年	全学科・4年	学期	通年	履修条件	選択	単位数	2
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	07G04_20300		
学習目標	世界は大量生産・消費による環境破壊、人口爆発と貧困、グローバル経済と諸紛争、テクノロジーの発達に起因する負の影響など、諸問題が山積している。人類はかつて経験したことのない未曾有の事態に直面していると言える。このような諸問題が即、日常生活レベルと通底していることが極めて現代の特徴であり、今こそクールな情熱と豊かな総合知としての哲学が求められている時代は他にない。豊富な思考資料の下、豊かな試行錯誤を心掛けたい。						
進め方	<p>個体発生は系統発生を要約して繰り返す（ハッケル）と言われるように、個人の精神史と世界のそれとは局面はどうであれ関連している。哲学概説を兼ねて哲学する意味を考えたい。世界内存在としての自己と諸問題、そして哲学的知の拡がりに思いを馳せる。西洋哲学史を歴史的に鳥瞰しつつ哲人と時代を考察する。（時代を生きること 哲学と人生）</p> <p>哲学から何故、科学的思考が形成されたのか、例えばデカルト哲学を詳細に考察しても良い。現代哲学と日本のおかれた特異状況を考察することにより未来知への展望・期待としたい。</p>						
履修要件							
学習内容	学習項目（時間数）			学習到達目標			
	○ 個人史としての哲学（哲学概説）	(4)		自己を形成している精神内容を見つめる眼と他者理解の態度を涵養する。 A1:3			
	○ 現代世界の諸問題と哲学	(6)		世界の諸問題と世界内存在としての自己 A1:4			
	○ 哲学知のさまざまな在り方	(4)		さまざまな知的在り方があること理解する。 A3:4			
	----- 前期中間試験（1）						
	○ 西洋哲学史「ソフィーの世界」を主な題材として 神話 自然哲学 運命 ソクラテス プラトン アリストテレス 神学	(10)		歴史的変遷によりさまざまな思想が誕生し、時代の役割を果たした事を知る。 A1:3			
	◎ 哲学と人生（ストア学派）	(4)		境遇の如何に拘わらず教養は人生を豊かにする。 A1:4			
	----- 前期末試験（1）						
	○ 試験返却、哲学と科学的思考あるいは方法論 デカルト ベーコン パスカール スピノザ ライプニッツ カント ヘーゲル など	(10)		哲学と科学的思考の不可分性と科学的思考を産出した西洋哲学の特性について考える。 A1:3			
	○ 現象学と人間諸科学	(4)		哲学の一形態である現象学が何故、成立したのか、考察する。 A1:3			
----- 後期中間試験（1）							
○ 総合知、世界観としての哲学	(6)		混迷の度を深める現代世界、総合知・世界観としての哲学の重要性を知る。 A1:3 A1:4				
○ Philosophy と哲学（東洋的形而上学）	(8)		世界の偉大な知的伝統の十字路口である日本とは何か…。 A1:3 A1:4				
----- 学年末試験（1）							
評価方法	定期試験 70%、小論文 20%、平常点（出席率、授業態度） 10%の比率で総合評価する。意見発表など積極的に授業参加した者に対しては過大評価をする。						
関連科目	なし						
教材	<p>教科書：なし</p> <p>参考書：ユスティン・ゴルデン著「ソフィーの世界」NHK 出版 木田 元 著「反哲学史」講談社学術文庫 木田 元 著「現代哲学」日本放送出版界</p>						

備考

テーマによっては映像を使用することもある。